

社会にインパクトある研究

## D. 世界から敬愛される国づくり



D2 近隣国理解



# 文理連携による 東北アジアの 新しい地域理解と課題の共有

# プロジェクト理念



近年、**東北アジア<sup>\*1</sup>**は域内の相互理解の不足に起因する問題に直面している。例えば、日本では冷戦後に様々な交流が始まったロシアやモンゴルへの関心は必ずしも安定せず、また長い交流の歴史を持つ東アジア諸国については、むしろ相互不信が増大している。その一方で、ロシア・中国などに跨がる形で、環境汚染、資源開発、人口の流動など、国境を越えて共有すべき問題が深刻化している。こうした課題を克服するための地域認識の新しい枠組みが必要である。従来、アジアとしての中国や日本と、ヨーロッパとしてのロシアは別々の枠組みで研究されてきた。しかし**東洋と西洋の枠組みを超えた新しい地域理解**が求められている。

東北大学は、冷戦後に我が国でいち早く**東アジアとロシアの統合的研究の重要性を訴え、その学際的研究の牽引役として東北アジア研究センターを設置した<sup>\*2</sup>**。また本学には、文学研究科、理学研究科、農学研究科、環境科学研究科など、多くの部局でアジアの文化・歴史および自然に関する基礎・応用研究が蓄積されている。これら関連する学内諸部局と協力することで、この課題に総合的に取り組む体制が構築可能である。

東北アジアは豊富な資源を含む寒冷な環境、巨大国家の統治の歴史、多様な民族集団の組み合わせが特徴である。**文理連携による学際的地域理解を内外の研究者と共に紡ぎだす体制を作り上げ、国家の立場を超えた現代的課題の共有を促進したい。**

具体的には三つの課題に取り組む。第一に、政治・文化的な相違・対立が目立ちがちな**東北アジアを、自然史・人類史的なタイムスケールの中に置きなおすことにより、地域理解の基盤を創出**する。そのため人文学と理学の学際アプローチによる寒冷地への文化適応の意義を、東北アジアの場において解明する。アフリカ起源の人類が寒冷なこの地域に到達する時、寒さの克服は大きなチャレンジであった。寒冷地適応はヒトの地球拡散の鍵であり、グローバルヒス

# プロジェクト理念



トリーの起源をつくった。そうした人類史を基盤として環境文明史的理解の共有を目指す。

第二に、**東北アジアを特徴づける大国の統治と民族的多様性を、人文学と社会科学が共同する課題として考究する。**中国とロシアはしばしば圧政を伴った帝国統治と権威主義体制の長い歴史をもつ一方で、少数民族や地域社会が独自の社会・文化的特徴を歴史的に持続させてきた。このような東北アジアの共生の歴史と社会対応のメカニズムを理解することは、近接する日本社会にとっても極めて重要な課題である。

第三に、現在国境を越えて共有されるべき課題として、**環境エネルギー問題や環境汚染、人や文化の移動・交流の問題**に着目する。これらの問題は東アジアとロシアの政治経済社会の相互作用のダイナミズムによって引き起こされるものであるが、観光のような経済効果や、黄砂のような越境する環境問題など、正負の側面をあわせもつ。その理解のためには地域枠組みとしての東北アジアは有効な概念であり、日本の戦略を考える上でも極めて重要である。

このプロジェクトは、**従来の歴史と異文化理解を主とする地域研究の方法に加えて、社会科学・自然科学などの学際的知見を総合し、国際的地域研究を先導して東北大学モデルの地域研究を確立すること**を目的とする。文理連携による学際的アプローチで環境文明論的な地域研究を推進するなかで、東北アジアの現地研究者や、地域住民などの多くのステークホルダーを巻き込んだ研究体制を確立する。さらにこれらを踏まえ**東北アジア地域研究コンソーシアム（仮称）**を構築したい。

※1 ロシア（特にシベリア・極東）、モンゴル、中国、韓国、北朝鮮及び日本を指す。

※2 冷戦体制崩壊後の東アジアとモンゴル・ロシアとの相互理解・協力・共生の社会的重要性の高まりを受けて1996年に設立された学内共同教育研究施設（独立部局）。

# プロジェクト概要



## 1 社会的課題

近年、日本社会は近隣地域の理解の不足に起因する問題に直面している。冷戦後の関係改善が成功せず不安定な二国間交流が続き、東アジア諸国は相互不信が増大している。その一方で、ロシア・中国などに跨る形で、環境汚染・資源開発・人口流動など、国境を超えて共有すべき問題が深刻化している。

## 2 解決の方法

本プロジェクトでは東洋と西洋という枠組みを超え、東アジアとロシアを東北アジアとして捉える。そして、文理を融合した研究を行うことで、この地域の自然・文化・歴史の連続性や多様性、政治的なダイナミズムを理解し、東北アジアの新しい地域理解を確立・発信することを目指す。そのために(1)人類史的なタイムスケールによる地域理解、(2)大国の統治と民族的多様性、(3)越境する諸問題の共有の3つテーマで研究を実施し、国際的な研究体制を通じて理解を共有していく。

## 3 東北大学の強み

東北大学では、冷戦終結後いち早く東アジアとロシアの統合的研究の重要性を訴え、1996年に東北アジア研究センターを設立した。それ以来、文理を超えた世界最高水準の研究を創出し、諸外国との国際連携体制を構築している。また、学内様々な部局においてアジアの文化や歴史、自然に関する基礎・応用研究の蓄積がある。

## 4 プロジェクトの効果

文理を融合した東北大学モデルの新たな地域研究を確立する。また、東北アジア地域研究コンソーシアムを通じて国際的に知識を共有し、新しい地域理解を世界に普及する。

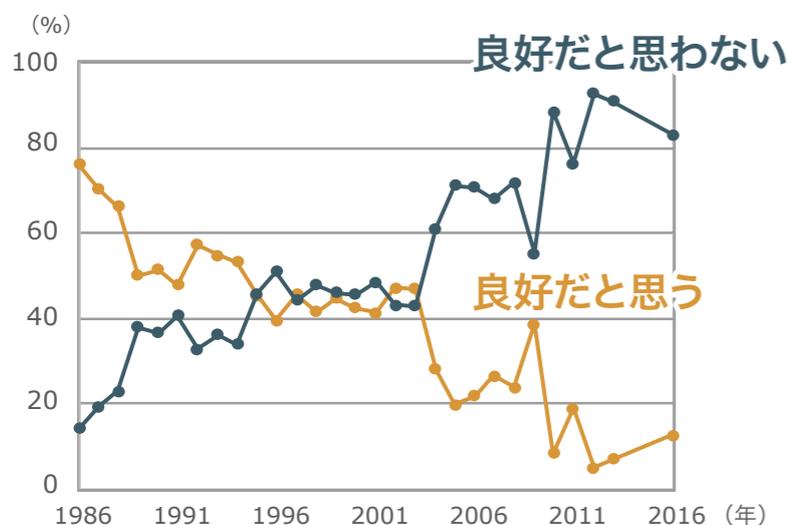
## 5 組織体制

東北アジア研究センターが中心となり、学内の部局と連携して文理融合・学際研究を行う。また、東北アジア地域研究コンソーシアムを設置し、学内外の様々な研究機関・地域と連携を行う。



# 近隣諸国との関係に関わる問題

## 現在の日本と近隣国との関係に関する日本人の世論



参照 | 内閣府『外交に関する世論調査』2016年



## 不安定な二国間交流

日中、日韓、日露、あるいは南北朝鮮など、冷戦後の関係改善が進む一方で、不安定な要因も抱えている

## 相互不信の増大

近隣諸国においてお互いの地域理解が不足し、抗議行動など排外的な行動が取られるといった問題が生じている

## 国境を越えた問題

環境問題や資源開発、人口流動の問題など、一国に閉じては解決できない問題が生じている

# 近隣諸国の地域理解を進める必要性

# 解決のコンセプト

## 「東北アジア」という視点の確立

- 近隣地域をロシアのアジア部分、モンゴル、中国、朝鮮半島、日本を含む「東北アジア」として捉え直す。
- ➔ 自然や文化、歴史の連続性や多様性、西洋・東洋という枠組みでは捉えられない政治的ダイナミズムが理解可能に

## 文理を融合した新たな地域研究

- 地域を理解するには、歴史や文化に加え、社会科学、自然科学、工学などの学際的知見を統合していく必要がある。



## 東北大学モデルの地域研究の確立

東北アジアという視点から文理を融合した新たな地域研究へ

# 課題解決に向けた研究のシナリオ



環境と文明の相互作用という視点から新しい地域理解を確立



# (1) 人類史的なタイムスケールによる地域理解

国家や文明を超え、環境との関わりの中で作られてきた地域として東北アジアを理解する

■ アフリカで進化した人類が最寒冷地である東北アジアに進出するのは大きなチャレンジだった。

寒冷地適応のカギとなったのは環境に適応する

→ 文化の進化

■ 地域との関わりという視点で東北アジアを人類史的なスケールに置きなおし、人文学、自然科学的に文化の進化を解明する。

## 1 大陸地殻安定化と生態系遷移

大地が形成されるメカニズムを含む地質史や、気象・生態系の進化を解明

## 2 先史人類適応の多様性

寒冷地適応の突破口を開いた石器文化に注目し、人類の多様な適応を解明

## 3 北方的生業と社会

狩猟採集民と牧畜民に注目し、資源生物の利用と社会の複雑化を解明

## 4 神話・宗教・世界観からみた環境と災害

東北アジアの環境を人類がどのように認識してきたかを宗教学から解明

4つの研究課題

# 東北アジア地域理解の知的基盤の構築

## (2) 大国の統治と民族的多様性

大国統治と民族多様性に注目し、共生の歴史と社会適応のメカニズムを解明する

- 東北アジアには多くの大国が存在してきた(中国、ロシア、モンゴル帝国、清国等)。大国統治では「統治する者」が「統治される者」を支配する強い力関係があるというイメージが強い。
- 一方、大国統治下においては多様な民族・宗教・文化が存在し、維持されてきた。
- ➔ 人々はどう支配を受け入れ文化を維持してきたのか？強い力で支配すれば大国を維持できるのか？
- 「統治する者」(国家)、「統治される者」(社会)、両者の関係に注目し、人文学、社会科学によって大国統治の新たな理解を引き出す。



3つの研究課題

東北アジアの新たなイメージの構築

# (3) 越境する諸問題の共有

環境汚染や資源開発問題、人口流動等、  
国境を越えた問題の理解を深める

- グローバル社会では**大規模な人・モノの流れ**が生じ、  
環境汚染、疾病拡散、災害対応などの**環境に関わる問題**も国境を超えて拡散する。
- 日本がこれらの問題解決に取り組むには、東北アジア  
独自の文脈に注目する必要がある。
- (1) **国家単位の対立**：冷戦時における「東側」「西側」の同じ側の  
国であっても価値観の共有が限定的で、国家単位の対立が大きい。
- (2) **多様な文化的境界**：東アジアとロシア（ヨーロッパ系統）や、  
多様な民族による文化的差異が大きい。
- ➔ **東アジア独自の考察の枠組みと解決策**を、前述の2つの  
研究テーマの成果を踏まえつつ、社会科学、工学を  
統合して提案する。



国際協力の在り方を考える基礎的知識を構築

# 東北大学の強み



## 東北アジア研究センターの研究蓄積

冷戦終結後、日本でいち早く東アジアとロシアの統合的研究の重要性を訴え、1996年に東北アジア研究センターを設立

歴史や社会科学、地質学や環境科学など、文理を超えた研究者が連携して研究を推進

**東北アジア研究の礎を構築**

東北アジア地域の世界最高水準の研究を蓄積・発信

東北アジア地域諸国との国際連携体制を構築

東北アジア研究の論文集や叢書の発刊  
海外の20以上の学術機関との学術協定  
シベリアに海外拠点設置(1998年～)

**地域理解の増進に貢献**

## 総合大学の強み

様々な部局にアジアの文化・歴史・自然について研究する研究者が在籍し、基礎・応用研究を蓄積

文学研究科、国際文化研究科、  
理学研究科、農学研究科、  
環境科学研究科 等

知のフォーラムによる連携(2018年)  
(プログラムタイトル「Geologic Stabilization and Human Adaptations in Northeast Asia」)

**分野を超えた研究体制**

世界の東北アジア研究をけん引する充実した研究体制

# プロジェクトの効果

## 東北大学モデルの地域研究の確立



人文学に加えて社会科学、自然科学を融合した新しい東北大学モデルの地域研究を確立する

## 東北アジア地域研究コンソーシアムによる発信

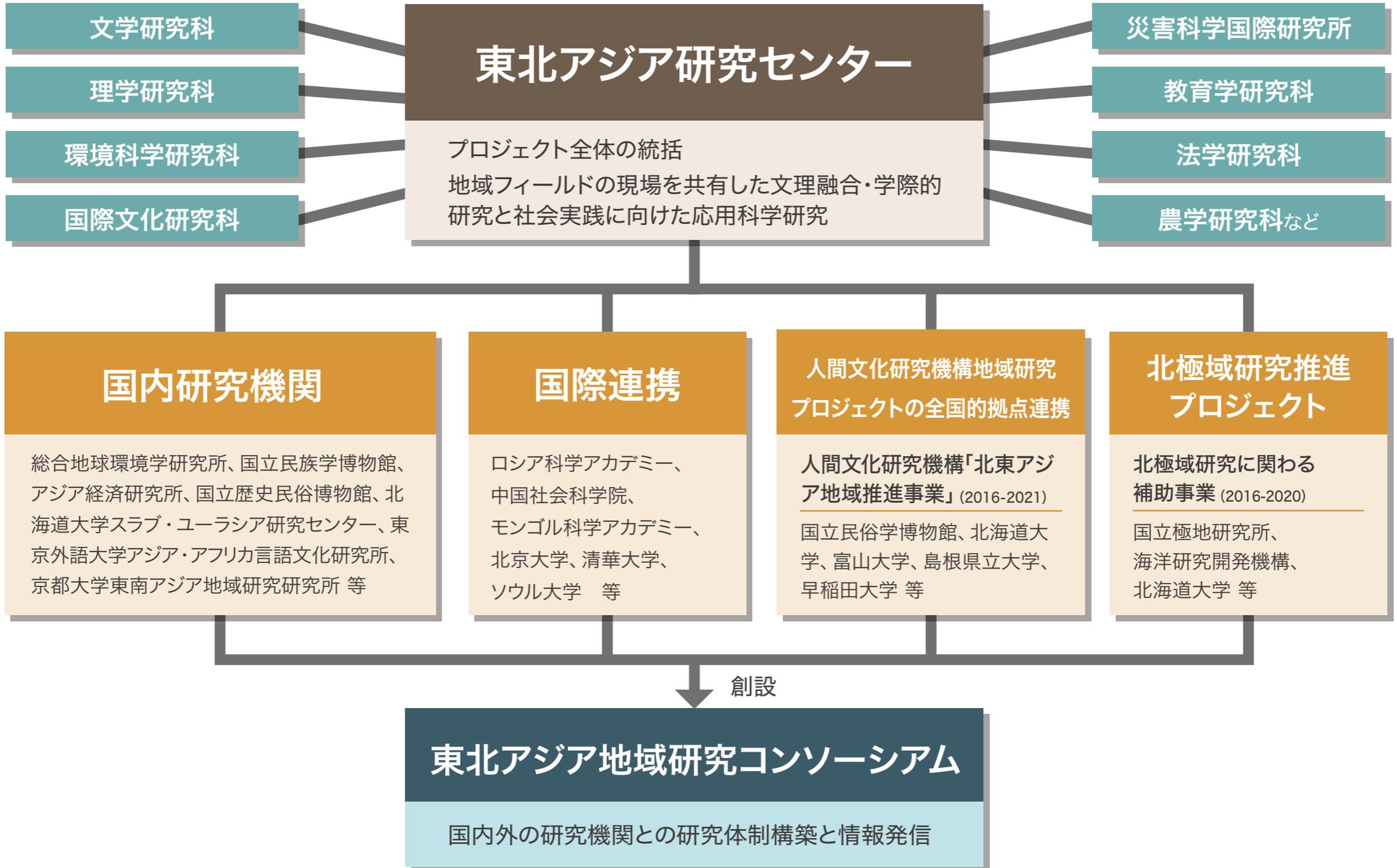


新しい地域理解の普及

国際共同研究の体制整備によって研究知見を国際的に共有する仕組みを構築し、新しい地域理解を広めていく

東北大学モデルにより新しい地域理解を確立し、普及していく

# 組織体制



# 今後のマイルストーン

